

自衛隊職場体験(青少年広報)を実施 初めての体験に目を輝かせて……



発行：沖縄二火会
(海上自衛隊第5航空群支援団体)
印刷：新栄印刷

第5航空群では、令和7年7月23日(水)から25日(金)の2泊3日で、第5整備補給隊司令(1等海佐志野雅一)を主任指導官として、沖縄県内外から集まった中高生22名に対して、自衛隊職場体験を実施しました。(遠方は、新潟県から参加)

自衛隊職場体験は、海上自衛隊那覇航空基地内に宿泊して自衛隊の生活を体験するとともに、様々な職種の仕事の体験プログラムを通じて、海上自衛隊に対する理解を深めてもらうことを目的に行っています。中高生の夏休み期間に合わせて実施していますが、昨年度は台風の影響で中止となったため2年ぶりの実施となりました。

初日は、緊張した面持ちの中、職場体験の概要を説明した後、開講式を実施しました。昼食時は、隊員食堂で給養員が調理した食事に「美味しい!」と笑顔を見せていました。夜は、海上自衛隊の職種などに関するDVDを鑑賞した後、集団生活や初めての経験に少々の不安を抱えながら、隊舎に戻り床につきました。

2日目は、今回のメインイベントであるP-3C哨戒機の体験搭乗を

予定していましたが、残念ながら台風の影響により、安全を最優先とし中止となりました。代わりに実施した職場体験では、第5整備補給隊で救命ボートの展張や航空機のエンジン整備の一部等を体験し、日常生活では味わえない経験に緊張しつつも真剣な表情で取り組んでいました。

その後、航空警備隊隊員の指導による行進や敬礼などの基本的な動作の体験や、厚生施設や体育施設の見学を行いました。夜は隊舎に戻り、世話役の班長と懇談を行い、すっかり打ち解けた様子で、笑顔が増え、積極的にコミュニケーションがとれるようになりました。最終日は、第5航空群においてP-3C哨戒機の見学を行い、間近で見る航空機の大きさに皆が驚くとともに、搭乗員の任務等の説明に真剣に耳を傾けていました。閉講式を終えた後は、海上自衛隊の名物である「金曜日のカレー」をしっかりと平らげ、第5航空群司令をはじめとする多くの隊員に見送られ、2泊3日の職場体験を終了しました。

職場体験プログラムもさることながら、同世代の参加者や自衛隊員と一緒に過ごした日々は、とても貴重な経験になったと思います。

参加者からは、「貴重な体験ができたかった」「来年もぜひ参加したい」「海上自衛隊に入隊したい」といった嬉しい言葉も聞かれました。

今回の体験を通じて一人でも多くの参加者が、海上自衛隊により興味を持ち、「平和を守る仕事」という仕事を職業選択の一つとして考えるきっかけになってくれれば幸いです。



海軍戦没者慰霊祭支援



沖縄海友会 門馬会長（祭文奉納）

執り行われました。

第5航空群からは、同行事の支援として、艦旗の掲揚・降下、ラッパ吹奏、儀仗隊による弔銃発射等のために隊員が派出されました。

海軍沖縄方面根拠地隊司令官大田實海軍中将の三男である落合 峻氏をはじめとする御遺族、旧海軍出身者と海上自衛隊のOBからなる沖縄海友会（会長 門馬規雄氏）会員、陸・海・空自衛隊、沖縄地方協力本部の各指揮官及び先任伍長等が参列し、沖縄戦を含む先の大戦での戦没者に哀悼の誠が捧げられるとともに、恒久平和が祈念されました。

門馬会長は祭文において、大田司令官の沖縄県民に対する憂えに思いを致され「沖縄県民斯く戦えり、県民に対し後世特別の御高配を賜らんことを」と結ばれた700字にのぼる海軍次官

宛ての電文は、正に「歴史の証言」であり、

戦争の悲惨さを切実に訴えておられ、恒久平和への祈りと誓いを新たにできるものであります。」と述べられました。また、「今もここ沖縄は、日本の外交及び防衛上の焦点となっております。特に、昨今の世界情勢を見ますと国防の重要性は誰もが認めるもので現実性を増しております。日々緊張が高なる中において、我が国の防衛に、日々の努力を積み重ね継続されておられる陸、海、空の自衛隊及び海上保安庁並びに在沖米軍の皆様に改めて敬意を表します。私達沖縄海友会は、県内に配備された自衛隊について、県民に対する防衛意識の高揚及び自衛隊に対する理解の促進について積極的に支援し、その崇高なる任務遂行が円滑に行われます様、県内各友好団体と協力し支援して参ります。」と述べられました



儀仗隊支援

基地・防衛モニター行事



陸上自衛隊 第15旅団部隊見学

令和7年6月27日に「基地・防衛モニター」行事として、陸上自衛隊第15旅団及び海上自衛隊那覇航空基地隊の部隊見学が行われました。

基地モニターとは、自衛隊に対する意見や要望等を聴取し、各地域に密着した広報活動を推進するとともに、部隊等における諸政策の改善・向上を図ることを目的とし、那覇航空基地周辺に住んでいる一般の方を対象とした海上自衛隊の制度です。防衛モニターは、陸・海・空自衛隊に対して基地モニターと同様の活動する防衛省の制度です。

第15旅団の部隊見学では、概要説明、装備品展示、体験喫食等が行われました。概要説明では、不発弾処理隊

の説明が行われ、不発弾の対応が年間190件前後あり、2日に一回出動していることや処理の仕方が3通りあり、安全、丁寧に処理を実施していることなど説明され、見学者からは「沖縄では不発弾発見のニュースが日常となっていたが、皆さんの努力で安全に生活できることを改めて認識しました。」と感想を述べられていました。

那覇航空基地隊の部隊見学では、航空警備隊による基本教練の実演・体験していただき、「簡単には音が出ないですね」と感想を述べられていました。



海上自衛隊那覇航空基地隊部隊見学

着任のご挨拶



第5航空群司令部
首席幕僚
1等海佐 田嶋 直人

令和7年6月1日 第5航空群司令部首席幕僚を拝命しました。沖縄は平成23年に飛行隊長として勤務して以来であり、約10年ぶりの勤務です。

近年、我が国の周辺国であるロシア、中国、北朝鮮がその軍事力を増強し、戦後、最も厳しく複雑な安全保障環境となっています。このような情勢の中、再び要衝の那覇で勤務することとなり、その重責に身の引き締まる思いです。

海上自衛隊の活動は、我々のみで円滑に実施することはできません。地元、沖縄の皆様の海上自衛隊に対するご理解を得て、国民の命と平和な暮らしを守り抜くため、微力ながら勤務に邁進する所存です。

また、那覇市民の一人として、前回の勤務では行けなかった所や変わった所なども含めて、沖縄の生活を満喫していきたいと思っておりますので、引き続き、前任者同様のご厚情を賜りますようお願い申し上げます。



那覇航空基地 親和会クラブ活動紹介

水泳部 第5整備補給隊辻曹長(水泳部部長)

那覇航空基地には、仕事の合間の余暇の時間を利用して活動する運動部及び文化部があります。

このコーナーでは、那覇航空基地のクラブ活動について紹介していきます。今回は、水泳部について紹介します。



日本マスターズ水泳大会団体成績3位

私たちは水泳部は、基地内に所属する隊員(部員)で活動しており、2年に1度開催される海上自衛隊水泳大会に出場できるように練習しています。

時代から水泳部だった隊員から、入隊後に泳げるようになった隊員までレベルも様々ですが、自己ベストの更新を目指し日々努力を重ねています。

今年初めの大会は、5月18日に浦添スイミングスクールで開催された日本マスターズ水泳大会でした。

県内外46チーム約500名が参加する中、昨年の準優勝を超えるべく今年こそはとの意気込みで臨みましたが、結果として、各種目の1位を複数獲得したものの、団体においては第3位の

成績に終わりました。

本大会参加を通じて、適度な緊張や参加者との交流、自己ベストの更新などとても充実した時間を過ごすことができました。

水泳の良いところは、体重による膝への負担が少なく、常に水圧を感じながら全身を動かすことができるスポーツです。

泳いだ後の心地よい疲労感は、ぐっすり眠れること間違いなしです。

年を重ねるにつれ水着になる回数が増え、グッと減ると思いますが、思い切ったプールの足を運んでみてはいかがでしょうか。

隊員の新人部員も大歓迎です。将来に向け介護されない体作りと一緒にしていきたいと思います。隊員みなさん!ご参加お待ちしております。



海上自衛隊水泳大会 50m平泳ぎ 3位



那覇航空基地自衛官ファミリー



質問事項

- ① 職種(仕事内容)
- ② 海上自衛隊に入隊した動機
- ③ 同じ基地内で勤務しての感想
- ④ お互いに一言！
(感謝や要望等)

このコーナーでは、海上自衛隊那覇航空基地内で勤務する「夫婦」「親子」「兄弟・姉妹」にスポットをあて「自衛官ファミリーの絆」を紹介します。

第10回目は、第5航空隊で勤務する山上親子について紹介します。

父
52 飛行隊

第5航空隊

息子
51 飛行隊



① 【父】固定翼操縦士：P-3Cの操縦士として勤務し、後進の育成に努めるとともに、運用班員として、飛行作業の計画や日々のスケジュールの調整等を行っています。

② 【息子】固定翼操縦士：P-3Cの副操縦士として日々任務に就いています。フライトがない日は運用班員として、スケジュールや可動航空機の確認、調整、各フライトの諸手当の確認等、部隊全体に関わる仕事をしています。

③ 【父】小さい頃から飛行機への憧れがありました。中学生の頃、映画「TOP GUN」を見てその魅力に完全に引き込まれました。パイロットへの最短の道が自衛隊の「航空学生」でした。

④ 【息子】父の背中を見て育ち、自然と自衛隊のパイロットに憧れる様になりました。高校2年生の冬頃、真剣に自分の進路を考える様になり、その時初めて父が航空学生を受験し操縦士になった事を知りました。自分も思い、猛勉強の末、入隊することができました。

⑤ 【父】同じ職場で働くようになって、私自身も改めて仕事に対する姿勢や取り組み方を見直す機会が増えた気がします。お互いの成長を感じつつ職場での役割を全うしていくことが一番大切だと感じています。

⑥ 【息子】飛行幹部候補生として約1年間5空で勤務し、幹部候補生学校を卒業し外洋練習航海を終え、希望通り5空に戻れたと思ったり、そこに父がいたので驚きました。しかも運用班という掛まで同じで、また驚きました。

今でもそうですが、昔から家では仕事の話をしていないので、家での父の姿しか知らず、職場での姿が想像できず最初はソワソワしました。

た。今でも少し気まずさはあり、やりづらいです(笑)。

会議の場でも、上司と部下という関係なので、私の報告を父がどんな気持ちで聞いているのか気になります。

⑦ 【父から息子へ】一緒に働けることを誇りに思います。

まあ、ちゃんと先輩として手加減してあげるよ

⑧ 【息子から父へ】同じ職場になったら面白いなと考えた事はあったけど、まさか本当に同じ職場になるなんて(笑)。実際勤務してみたらちょっと気まずいけど、やっとここまでくることができました。あともう少しで追いつくので、追い越すまで待ってね

健康に気を付けて、お互い安全飛行で任務遂行しましょう。



派遣海賊対処行動航空隊(第56次隊要員)帰国行事

令和7年5月25日、第56次派遣海賊対処行動航空隊要員(指揮官長2佐、以下約50名)の帰国行事が行われました。

約5か月間の任務を終え、遠くアフリカの地から帰国し、家族や隊員に出迎えられた隊員の顔は、無事に日本に帰ってきた安堵感や、長期間の任務をやり遂げたという達成感などが溢れていました。

自衛艦隊司令官(海将大町克士)の訓示(第5航空群司令海将補平木拓宏代読)では、「本日、第56次派遣海賊対処行動航空部隊指揮官長洋介司令をはじめとする諸君が任務を完遂し、無事に帰国したことを大変嬉しく思います。」の初句から始まり、「本任務の完遂は、派遣隊員の高い使命感とともに、皆様の任務に対する深いご理解とご支援の賜であり、



この場をお借りし重ねて心より御礼を申し上げます。年末年始を一緒に過ごせなかった分、しばらくの間は隊員とともに、ごゆっくりお過ごしいただければと思います。結びに、派遣隊員諸君には、今回の任務で、一人一人が自ら果たした役割と成果に大いなる自信と誇りを持ち、引き続き、職務にまい進するとともに、なお一層、活躍することを期待し、帰国に際しての訓示とします。」と述べられました。



うちなんちゅ(沖縄出身)隊員紹介

第5航空隊 宮城1曹(宜野座村出身)



私は令和2年に海上自衛隊に入隊し、今年で6年目になります。小学6年生の時、授業にて自国の排他的経済水域等の広大な海域を初めて認識し、また我が国が輸入に大きく依存していることについて学びました。こんなに広大な海域をどのように守っているのか、輸入に関わる船舶の安全をどのように守っているのかを疑問に感じ、調べると、海上自衛隊の航空部隊が警戒監視という任務を行い、「戦術航空士」という配置が任務を統括していることを知りました。私はその時に、「この仕事だ！」と直感し、以後戦術航空士は私の夢、目標となりました。中学、高校とその目標は変わらず、戦術航空士になるため、海上自衛隊航空学生を採用試験を受け、合格することができ6年越しに、夢のスタートラインに立つことができました。

入隊後は、山口県に所在する小月教育航空隊において、海上自衛官及び搭乗員としての素地を学び、同じ基地内に所在する第201教育航空隊において、T-5型初等練習機により航空機の操縦



訓練を受けました。その後は、千葉県に所在する第203教育航空隊において、戦術航空士の基礎を学び、晴れて資格を取得した証明であるウイングマークが授与され、昨年の4月に、ここ沖縄の第5航空隊に着隊しました。4年間の教育期間、戦術航空士を志して10年越しに戦術航空士への道をつかむことができました。

現在は、戦術航空士としての技量を磨きつつ、東シナ海における警戒監視の任務に従事しています。忙しい中でも、そのやりがいと充実した日々を過ごしています。

課業後や休みの日は、同期と食事に行ったり、シュノーケリングやダイビングといった沖縄の魅力であるマリンスポーツを楽しんでいます。

最後に今後の目標ですが、戦術航空士としての知識、技量、経験をさらに磨き、部隊の中核を担える人材を目指しています。そして現在私と同じ戦術航空士になるべく、第203教育航空隊にて学んでいる弟と一緒に沖縄の美しい海を守っていきます。



「海上自衛隊の日」について

「海上自衛隊の日」は、昭和27年4月26日に海上自衛隊の前身である「海上警備隊」が創設された日を「海上自衛隊の歴史と伝統を考える日」として、平成25年に制定されたものです。海上自衛隊の各部隊等では、毎年4月26日に、講話や研修等が行われています。

第5航空群では、群司令の訓話、史跡研修及び海岸清掃が行われました。

(今年度は、4月26日が土曜日だったため、その前後の日に実施されました。)



群司令訓話



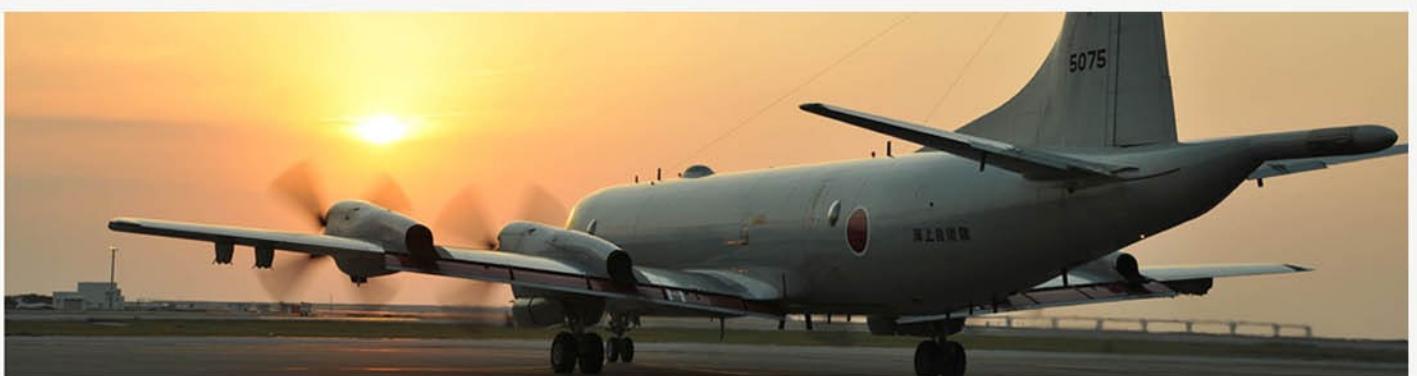
瀬長島ビーチクリーン
(第5整備補給隊)



基地周辺ビーチクリーン(第5航空隊)



史跡研修(那覇航空基地隊)



着任のご挨拶



第5整備補給隊
先任伍長 花城 充
海曹長

令和7年7
月1日付、第
5整備補給隊
第11代先任伍
長を拝命しま
した花城曹長

です。

職種は航空発動機整備員で、前配置は第5機側整備隊飛行支援掛の作業管理として勤務していました。

沖縄県南風原町の出身で現群先任伍長および那覇航空基地隊先任伍長は、同じ南風原町の先輩方なので大変心強い存在です。

さて、先任伍長の任務は、海曹士の規律及び風紀の維持、団結の強化及び士気の高揚策等、どれも私一人では解決ができる事柄ではなく、隊員一人一人の協力が必要となります。

そのために、持ち前の発信力を活かして海曹士隊員とともに、第5整備補給隊司令の志野1佐の指導方針「ATM」(明るく、楽しく、前向きに)を実感できるような環境作りのために尽力して、精強・誠実な第5整備補給隊を継続できるよう精一杯努めて参ります。

また、各種行事ごとや各種ボランティア活動等を通じて、沖縄二火会をはじめとする各協力団体の皆様及び地域住民の皆様との交流を深めることができるように精進してまいります。

今後とも前任者同様、ご厚情を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

海上自衛隊

職種紹介

このコーナーでは、海上自衛隊 第5航空群において勤務されている隊員及び職種について紹介します。

初めに海上自衛隊は、主として「海」を行動の場としています。周囲を海に囲まれた我が国にとって、海の安全を守ることは非常に重要であり、日夜、日本周辺海域において、警戒・監視活動等に従事し、日本の安全を守っています。また、災害等が発生した際には、艦艇や航空機を派遣し、捜索・救助、救難物資の輸送等を行っています。

今回紹介する職種のほかに、航空管制員や調理員、電子整備員など、多数の職種があり、全33職種で約50種類の業務が行われています。

その中から今回は、第5整備補給隊 機側整備隊で航空電機計器整備員として勤務している隊員を紹介します。

質問事項

1 仕事内容

2 将来の目標

3 これからの将来を決めていく後輩たちへのメッセージ

航空電機計器整備員…第5整備補給隊
中村 3 曹

1 「電機計器整備員

として、海上自衛隊が保有する航空機の搭載機器や計器の整備を実施しており、主に電源系統、照明系統、警報系統、自動操縦系統に関する点検、検査、修理を行っています。」



「プロペラ抵抗測定作業」

2

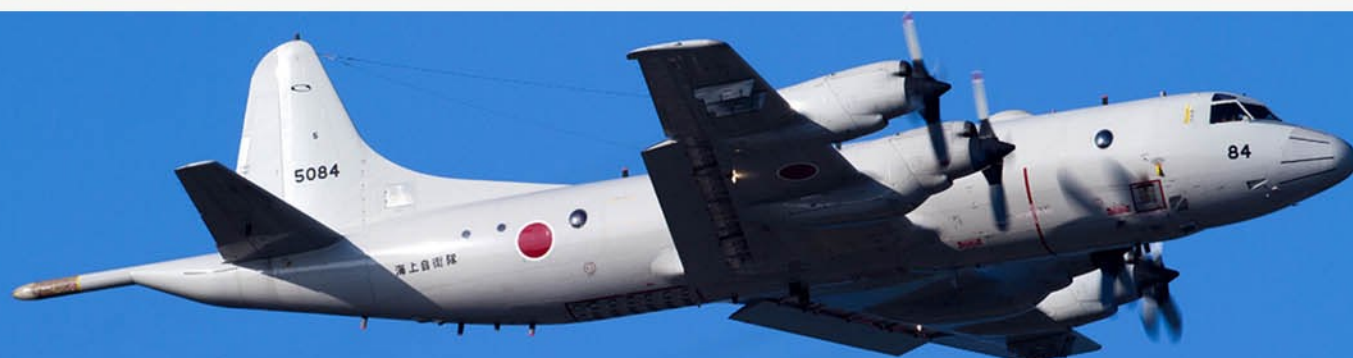
「日々、向上心を持ち、安全な航空機の整備に努め、また後輩育成に励んでいきたいです。」

3

「私は、高校を卒業後、様々な仕事をして26歳で海上自衛隊に入隊しました。地元を離れて違う環境を求めている私に不安はなく、たくさんの人に出会える楽しさがありました。今では相談できる仲間も全国にあり、良い出会いがありました。たくさんの出会いがあるのも自衛隊の魅力だと思えます。焦らず、ゆっくり考え少しでも自衛隊に興味を持ってもらえばうれしいです。」



「ストロボライトレンズ点検」



摩文仁の丘清掃ボランティアに参加して

第5航空群司令部 今村曹長



令和7年6月7日、海上自衛隊那覇航空基地上曹会は、摩文仁の丘清掃ボランティアを実施しました。ここ二年間は梅雨の時期の雨天により中止となりましたが、今年は晴天に見舞われ、約1,000人近くの方が参加されました。

この清掃ボランティアは、毎年6月23日(慰霊の日)に行われる沖縄戦没者追悼式に先立ち、陸・海・空自衛官とその家族、また第5航空群の支援団体の沖縄二火会はじめ各自衛隊支援団体、在沖米軍の有志で行われているもので、隊員の家族を含めた各団体等との親睦と相互の融和団結を図ることを目的としています。

摩文仁の丘は、糸満平和祈念公園内に所在する沖縄戦の終局の地です。日本軍人だけでなく地域住民の多くの人々が巻き込まれ、ここで亡くなりました。

現在、私たちが見えているこの平和な景色は先人のおかげであり、この平

和な姿を見ることが、亡くなられた方々に対しての追悼にも繋がるような気もします。

清掃活動後には、代表者による献花をおこない、追悼の意を持って終了しました。

現在の平和を享受する我々は、先人らの子孫の平和を願い、幾多の努力と苦勞によって作られた、現代の平和な世の中を生きる者として、先人の思いを後世に伝えていかなければと強く感じました。今回このような清掃活動に参加し、参加された方々と親睦を深めることができ、過去の歴史に触れることで、今の幸せを改めて実感できました。



「サマーフェスタ2025」

令和7年7月18日(金)、那覇基地において「サマーフェスタ2025」が開催されました。今年度のサマーフェスタは、猛暑に加え、沖縄特有のスコール(一時的な大雨)があったにもかかわらず、約3,000人が来場し、各種イベントを楽しんでいました。

ステージでのイベントには、第5航空群から軽音楽部が参加し、5曲のJ-POP演奏を行い、終了後には観客から大きな拍手が送られました。



「軽音楽部ステージ演奏」



「南極の氷展示」

広報ブースでは、陸、海、空自衛隊が、各自衛隊のパネル展示や制服試着を行ったほか、特別展示として、海上自衛隊の砕氷艦「しらせ」のDVD放映に合わせ「南極の氷」を展示しました。猛暑の中、一時の「南極の涼」を提供し、来場者も初めて触る「南極の氷」に喜んでいました。



第5航空隊 「初機長フライト」 紹介

海上自衛隊第5航空隊において「初機長フライト」を終えたP-3C哨戒機の搭乗員に感想を伺いましたのでご紹介します。

「初機長フライト」とは、操縦士・戦術航空士が、初めて機長として航空機に搭乗して運航するフライトのことです。初機長フライトに至るまでには多くの訓練を要し、

各段階の検定をクリアし、機長として飛行作業に臨むに相応しい知識・技能を備えていると認められなければなりません。そのため、操縦士・戦術航空士にとって「初機長フライト」は、搭乗員人生の中で一つの大きな節目とも言えるフライトになります。



令和7年4月1日(火)
初機長フライト

まず、ここまで育ててくださった教官、上司、先輩、後輩、クルー、整備員等、日頃から円滑な飛行作業に協力してくださっている方々へ感謝いたします。

私はこの第5航空隊に着隊して5年経過し、やつの思いで初機長フライトを無事終えることができました。

私は諸事情により同期に比べ遅い初機長フライトとなりました。同期から遅れている分、初機長フライトを待っている間は今か今かと待ちわびておりました。しかし、いざ初機長フライトが計画されると考えなければならぬ事が無数にあり、初機長フライト当日はこれまで感じたことのない不安と緊張感でいっぱいでした。

滑走路を走り離陸する時、握ったこぶしから力が抜けなかったことを覚えています。しかし、同乗していた後輩、クルーの熱烈なサポートのおかげで飛行中の不具合にもこれまでの指導を思い出しつつ、適切に対処することができました。そのおかげで達成感に満ち溢れて初機長フライトを終えることができました。航空隊の皆が私の飛行機を整列して出迎えていただき、司令以下、諸先輩方の顔が見えた時、心から安心しました。

写真撮影後も先輩方から暖かい労いのお言葉をいただきました。第5航空隊で初機長フライトができてよかったと感じました。これからは機長として責任を果たすことができるように知識、技能の習熟に努め、任務に臨んでいきたいと思えます。

第5航空隊第51飛行隊所属 久保田 2尉

在沖米陸軍とのスポーツ交流に参加して

第5整備補給隊 池田士長

令和7年6月6日、在沖米陸軍第10支援隊群(トリイステーション)において米陸軍250周年陸軍創立記念行事の一環として、ビーチバックスポーツイベントが行われ、米陸軍兵士と第5航空隊及び陸上自衛隊第15旅団第15ヘリコプター隊の隊員によるスポーツ交流が行われました。

このスポーツ交流は、在沖米陸軍との交流を通して、お互いの文化を知り、日米間の親睦を深めることを目的として行われました。

私は、沖縄に赴任し3年が過ぎましたが、今回、在沖米軍とのスポーツ交流があると聞き、学生時代から続けているバレーボールの特技を生かし親睦を深めたいと思い初めて参加しました。

今回のスポーツ交流は、トリイビーチ周辺会場において、ビーチバレー、フラッグフットボール、フリースロー競技、フットボール投げコンテスト、綱引き競技などたくさん種目が行われ、参加した隊員は、それぞれの競技で親睦を深めていました。



「綱引き競技」



「ビーチバレー」

また、休憩時間には、アメリカカンナハンバーガーやホットドッグ、ドリンクやスナック菓子等が準備され、楽しいひと時を過ごしました。

スポーツを通しての交流は、英語が苦手でも何の問題もなく、お互いが片言の母国語やジェスチャーを交えてコミュニケーションをはかり、大いに盛り上がりました。

このような在沖米軍及び他自衛隊との交流や、ボランティア活動は、コロナ禍により一時期途絶えていたようですが、今年度から徐々に復活してきており、沖縄勤務時でしかできない体験なので、今後も同様な機会があれば、積極的に参加したいと思えます。

那覇ハーリーに参加して

第5整備補給隊 下八重士長



令和7年5月5日、沖縄最大級の伝統海上行事「第51回那覇ハーリー」が開催されました。

第5航空群では、有志37名による「海上自衛隊第5航空群」チームを結成し、一般競漕(職域対抗戦)に参加しました。那覇ハーリーは、琉球王国時代から国家的行事として栄えてきましたが、1928年を最後に競技が途絶えていました。

本土復帰記念事業として、1975年に開催された沖縄海洋博を機会に復活し、その後は、沖縄を代表する行事となったそうです。

那覇ハーリーと県内他の地域のハーリーの違いは「舟」の規模の大きさにあり、那覇ハーリーの舟は、全長14.5m、幅2.1m、重さ2.5t、漕ぎ手32名、鐘打ち2名、舵取り2名、旗持ち等6名と乗組員が、最大42名になることもある大型のもので、舳(へさき)には竜頭を、艫(とも)には竜尾の彫り物を飾った特別な舟となっています。

当日は、小雨が降る中、往復約600メートルのコースを、総員が「一致団結」し、限界まで力を振り絞り漕ぎ続けました。

残念ながら、決勝戦に進出できませんでしたが、沖縄の伝統海上行事に参加し、沖縄の文化に触れ、地域住民との交流もでき、充実した日となりました。



海上自衛隊 第5航空群 公式SNS・広報ラジオ「美ら海の防人」



第5航空群公式
ホームページ

第5航空群では、SNSを活用した情報発信を行っています。

隊員のオフショットや各種行事などが紹介されています。

「X」や「Instagram」で「jmsdf_5aw」を検索し、是非ともフォローしましょう！

また、沖縄県に在籍する陸・海・空自衛隊が交替わりで自衛隊について放送する広報ラジオ「SDFアワー」で、第5航空群は「美ら海の防人」という番組を担当し皆様にお送りしています。

番組に関するお便り、ご質問要項及び年間放送スケジュールは、第5航空群ホームページで確認できます。

番組で紹介された方には、もちろん第5航空群オリジナルグッズをプレゼントします！

下記のQRコードからアプリをダウンロードすれば、全国どこでもスマートフォンで聴けますので是非聴いてみて下さい。お便りもお待ちしております。

X @jmsdf_5aw



Instagram
jmsdf_5aw



放送局(周波数)

FM レキオ (80.6MHz) / FM21 (76.8MHz)

FM もとぶ (78.2MHz)

毎週金曜日 20:00 ~ 21:00

※再放送日 (FM レキオのみ) 日曜日 21:00 ~ 22:00



FM レキオ・FM21
FM もとぶ・FM21





海軍壕慰霊の搭
清掃ボランティア



摩文仁の丘清掃ボランティア

とは、那覇航空基地に所在する海上自衛隊の部隊で勤務する上級海曹（海曹長及び1等海曹の階級の隊員）の中から、各種事業活動に賛同する有志で構成している任意団体です。上曹会は、会員の融和・親睦を図り上級海曹としての地位を向上させるとともに、各種行事やボランティア活動を通して、中級海曹（2等海曹）以下の隊員に模範を示し、道徳心の涵養に努めることで隊務の運営に寄与することを目的として活動を行っています。

令和7年4月に行われた年度総会で、新会長はじめ副会長以下7名の新役員が選出されました。今年度も、これまでの役員の活動理念を継承しつつ、各種ボランティア活動や各種行事等へ積極的に参加し、隊員家族をはじめとする地域の方々との交流及び親睦に寄与していきたいと考えておりますので、皆様には、前任者同様、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。



第5航空群司令部
大城1曹

広報誌「でいご」をご愛読の皆様、初めまして。令和7年度那覇航空基地上曹会会長の大城1曹です。

**那覇航空基地上曹会
会長交代しました！**

「でいご」に関するご意見、ご感想、寄稿などがございましたら、沖縄二火会事務局または第5航空群広報室までご連絡ください。

■ 沖縄二火会

事務局長 後関 光利
oknikakai@yahoo.co.jp

※「沖縄二火会」WEB サイト

<https://okinawa-nikakai.com>

※「でいご126号」は、令和7年4月から令和7年7月までの行事等を基準に掲載しています。

■ 第5航空群広報室

那覇市当間 252
5aw@inet.msdf.mod.go.jp
☎ 098-857-1191 (内 5231)

編集協力委員

首席幕僚	田嶋	1佐
広報室長	山脇	3佐
群司令部	與那覇	1尉
5空	平尾	3尉
5整備隊	山川	1尉
那空基	小西	2尉
広報室	今村	曹長

